



# まがたま

一人一人が輝く学校・地域と共に歩む学校

令和6年 10月30日

豊玉中学校だより No. 17

【E-mail】 [shimura.osamu@nerima-ky.ed.jp](mailto:shimura.osamu@nerima-ky.ed.jp)

【URL】 <https://www.nerima-ky.ed.jp/toyotama-j/>

秋が深まり、朝晩の冷え込みが感じられる季節となりました。10月は収穫の秋であり、お店にも新米や秋の味覚がたくさん並ぶようになってきました。学校においても1学期の振り返りをもとにした夏休みの努力の成果が結果として表れる時期で、更なる挑戦をしていく時期です。この秋の季節を通じて、生徒たちが新たな学びや経験を重ね、一層の成長を遂げることを期待しています。



秋と言えば、「スポーツの秋」、「食欲の秋」、「読書の秋」などがありますが、「芸術の秋」として今週末には合唱コンクール・文化発表会が予定されています。音楽の授業や放課後の練習等で学校中に歌声が響き、当日の発表が待ち遠しく思っております。ぜひ、学級が一丸となり目標に向かって精一杯歌う姿をご覧ください。

最後に先日行った全校朝礼での校長講話を紹介いたします。ご一読ください。

おはようございます。一週間前は3年生の皆さんとともに修学旅行に行ってきました。実行委員を中心としてルールを決め、班で話し合っってコースを選び、協力しながら班行動を成功させていました。私が中学生の頃の修学旅行は学級、学年単位でガイドさんの後についてぞろぞろと歩き、説明を聞くだけで、今の班行動のような自由さなどありませんでした。今は班行動を中心に自分たちの手で修学旅行を作り上げることができます。先週の修学旅行では季節外れの暑さと観光客などの想定外の人の多さで思い通りの行動ができなかった人もいるかもしれませんが、楽しく思い出深い行事になってくれたらうれしく思います。

たくさんの行事の中で私自身の中学校時代、最も思い出に残っているのは修学旅行なのですが、教員になってからは合唱コンクールが最も心に残る行事となっています。その合唱コンクールが約2週間後に迫ってきました。そこで本日は合唱コンクールに向けての話をします。

すでに音楽の授業の他に学級での練習が本格的に始まっています。今年度の合唱コンクールは各学級の計画委員会を中心に学級討議を重ねスローガンや練習方法などを話し合い、当日に向けて取り組んでいるところです。声の大きな人、小さな人、高い声が出る人、低い声が出る人、歌うのが好きな人、好きでない人、様々な人がいると思います。合唱の素晴らしさは、様々な人の歌声が集まって一つの美しいハーモニーが作り出されることにあります。そしてその過程で学級の全員が一丸となるためにお互いに支え合い、協力し合うことが大切になります。また一丸となるためには、指揮によって呼吸を合わせ、他のパートの声や伴奏をよく聞き、心で感じながら合わせていく必要があります。ぜひお互いに相手のことを考えながら、合唱をともに作り上げた仲間に感謝の気持ちをもって歌って欲しいと思います。

何事も時間をかけて練習すればその分うまくなります。しかし練習する時間には限りがあります。時間を大切に集中して充実した練習をしていきましょう。そして当日、その時最高の合唱を作り上げていってください。また、コンクール形式なので順位がつきます。結果はどうあれ、皆さんの一生懸命な姿や団結力こそが真の価値になります。会場にいる人たち、自分自身が感動できることが一番の経験、財産となるのです。

最後に、歌詞をしっかりと覚え、作った人の思いを理解し自分の思いをのせて表現してください。皆さんの素敵な歌声が体育館いっぱいに響き渡ることを楽しみにしています。自分たちの力を信じ思い切り歌い上げてください。練習や音楽の授業で聞こえてくる歌声に合唱コンクールが待ち遠しくなっています。これから2週間、わくわくしながらその時を待っています。今日の話は以上です。

<全校朝礼 校長講話より>

## 福祉体験を終えて

主任教諭 水野 直子

2学年では、10月2日から4日までの3日間、地域の福祉に関わる事業所で体験学習を行いました。福祉体験学習は今年度が初めての体験学習です。今回の福祉体験学習は、前年度まで行われてきた職場体験における「体験などを通して働くことの意義を知る」「大人の社会でも通用する責任感、マナーを身に付ける」という目的に加え、「支え合って生きる社会の一員として、福祉の問題を自分ごととして捉える」と「相手の立場に立って対応できる姿勢をもつ」を加えた目的で行うプロジェクト学習です。

事業所は学区内だけでなく、桜台や中村地区の保育園、高齢者施設など、徒歩で30分かかる場所もあり、「2人～6人のグループで約30の保育園と高齢者施設へ出向き、1日6時間の体験を3日間行う」という内容から、正直、体調不良で早退や遅刻があるのではないかと心配していました。けれども、参加者全員が3日間しっかり体験に行くことができ、2年間の成長を感じました。以下に生徒の感想を紹介します。

- ・園児の昼寝の時間帯に、遊具、おもちゃを全て点検することを知った。命を守るということの裏では、たくさんの仕事があり、それを親にしてもらっていたことがわかった。(保育園)
- ・90代の方から戦争中の話を聞き、心に残った。自分たちくらいの頃に苦しい日々を体験して、今私たちに語ってくれたことに考えさせられた。(高齢者施設)

また、保護者の方からも「3日間、毎日表情がよくなりました。」「職場の方々によくしていただき精一杯やってきたことがわかりました。」などの言葉をいただき、温かく見守っていただいたことに感謝しています。

そして、事業所の方々からは、「中学生が来たことで、明るく活気のある雰囲気になり、入居者にとっても良い刺激になりました。」(介護施設)「園児たちに積極的に関わってくれました。新しいアイデアを出すなど、職員も感心していました。」(保育園)などの言葉をいただきました。学年では今後も一層の成長ができるよう、次の校外での取組に向け、準備を始めています。福祉体験へのご理解とご協力ありがとうございました。

## ～ 3年修学旅行～

教諭 丸田 尚哉

3学年は10月13日から15日の日程で、奈良・京都方面に修学旅行に行ってきました。今回の修学旅行では、班ごとにテーマを設定し、そのテーマに沿った班行動を行いました。昨年度の校外学習では、終了予定時刻を大きく過ぎて帰って来るなどの失敗がありました。しかし今回の修学旅行では、トラブルにも、当事者で臨機応変に対応するなどの大きな成長が見られました。また、実行委員が今までの反省を生かし、きちんと計画・準備をし、生徒同士での声かけを行うことで、生徒自らの手で修学旅行をやり遂げることができました。



修学旅行の学びの中には、奈良・京都を訪れている外国の方に英語でインタビューをする学習もありました。そして、今後の事後学習では実際に見聞きした奈良・京都の魅力を発信するプレゼンテーション活動を行っていきます。生徒がどのような形で、修学旅行での学びを表現するか、とても楽しみです。

修学旅行はこれまでの行事や授業、普段の学校生活など3年間で学んできたことの集大成となる行事です。そうした行事で大きな成長が見られたことを大変うれしく思っています。

されど、生徒たちも後日の振り返りで話し合っていました。まだまだ課題や改善点も多くあります。今回の修学旅行で得た学びをこれからの進路選択等に生かし、良い形で卒業を迎えられるよう、更なる成長を遂げてくれることを期待しています。